

## アーバンデザインの実際

近代都市計画は実態にもとづく調査・研究とその科学的分析が基礎となって、将来動向（トレンド）を読み、予測して公共の福祉が満足されるように計画を立案し、実践・実施していく。社会・経済の変化と時機に応じた社会的要請にもとづき計画は見直し、修正、変更が余儀なくされるが、これは当然のことで、都市計画の失敗でも誤りでもない。およそ 100 年程度のスパンで考えなければまちの様子は変わらない。逆に急激な変貌を遂げた日本の都市が特異例なのである。21 世紀を迎えて今後の 100 年に何を為すべきか、または為さざるべきか、環境共生、持続可能な開発、住民参加などがキーワードにあがっている今日、諸外国の都市の例に学べることがあるだろうか。

### 1. 実際の都市環境を見る（海外事例）

#### 1) 日本大学の長期派遣研究員

1994（平成 6）年 5 月～1995（平成 7）年 5 月に欧州を中心として 22 か国 114 都市を訪問観察

#### 2) 委託研究

1999（平成 11）年 3 月に米国東海岸ニューヨーク、ボストン、ボルチモア / 欧州（フランス、英国）

#### 3) 総長指定研究

1999（平成 11）年 8 月に米国西海岸ロサンゼルス、サンフランシスコ、サクラメント、デンバー

#### 4) 総長指定研究

2001（平成 13）年 9 月にドイツ連邦共和国フライブルク、ハンブルグ

#### 5) 学生海外研修旅行同行

2002（平成 14）年 8～9 月に欧州 11 か国

それぞれの目的をもって各都市で調査・研究をおこなう。

あわせて都市・建築・環境の撮影記録

### 2. アーバンデザイン・プロデューサ

アーバンデザインは、多くの主体が都市全体を意識し、「協働」によって都市を形づくる手法であるため、個性豊かなアーバンデザインには建築物や工作物という「部分（パーツ）」と都市・都市景観という「全体」を総合的に調整し、道筋をつける役割の事業プロデューサ（アーバン・プロデューサ / アーバンデザイン・プロデューサ）が求められることが多くなっている。

アーバン・プロデューサとして、古くはフランスの「パリ大改造（1853～1870 年）」のナポレオン世（Louis Napoleon Bonaparte, 1808～1873）とセーヌ県知事ジョルジュ・ユジェーヌ・オスマン男爵（Georges Eugene Haussmann, 1809～1891）およびフランス革命 200 年を記念したパリの「グラン・プロジェクト（1989 年）」と呼ばれる 9 大プロジェクトを指揮したフランソワ・ミッテラン（Francois Mitterrand, 1916～1996）らの事例を示す。

#### 1) パリ大改造

- ・ まっすぐ延びる広幅員の見通しのきく街路を通す（エトワール広場からナシオン広場までを結ぶ都市軸・広場間にコンコルド広場、ルーブル、バステューユ広場などがはさまれる）
- ・ 街路に沿った統一したファサードの建築物
- ・ シテ島に行政・公共機関の集中（役所、病院、裁判所、牢獄、ノートルダム寺院の改修）
- ・ オペラ座の建設

- ・ 緑化 (ブローニュの森、ヴァンセンヌの森・・・)
  - ・ インフラストラクチャの整備 (照明 (ガス灯)、水道、下水道)
- } 公衆衛生を目的

## 2) グラン・プロジェ

ジズカールデスタンが構想しミッテランが実現したグラン・プロジェは「大統領のプロジェクト」と呼ばれる。工事現場は「大統領の現場」と皮肉られるほどパリにとって大きなプロジェクトとなり、現在のパリの新しい面を形成している。1985 年以来新築または改築され、オープンが続いた 9 大プロジェクトは以下のとおり。

- ・ オルセー美術館 (1986 年) (ガエ・アウレンティ)

世紀末につくられた鉄骨の駅舎を保存し、19 世紀を中心とした絵画やオブジェを一堂に集め、展示している。ルーブルとポンピドゥの中間に位置している。

- ・ グラン・ルーブル (1989 年) (I.M. ペイ) (美術館改造計画)

大蔵省を移転し、ルーブル宮全体を美術館を中心とする複合文化施設とした。ガラスのピラミッドが有名。シャンゼリゼ、凱旋門、デファンスへとつながる都市の軸線の強調とした。

- ・ アラブ世界研究所 (1987 年) (ジャン・ヌヴェル)

地中海をまたいだふたつの文明の歴史的な交流を象徴している。アラブ文化の理解を助ける研究所。

- ・ オペラ・バステュー (カルロス・オット)

シャルル・ガルニエ設計の由緒あるオペラ座に対する、庶民のためのオペラ公演を目的につくられた。ミニマリストの考え方で、外観の装飾はほとんどない。

- ・ 大蔵省 (1989 年) (チェムトフ、ウイドプロ)

ルーブル宮全体を美術館とするための転出、宮殿にあるオフィスではコンピュータ時代に対応できないというふたつの理由から、ベルシー地区に新設された。5 棟の建物に 6,000 人の行政マンが業務する総床面積 216,000 m<sup>2</sup>のオフィス空間。

- ・ ラ・ヴィレット (1985 年から徐々に開設) (ベルナール・チュミ)

都市公園 (ベルナール・チュミ) と音楽都市 (= 国立音楽大学とホール) (クリスチャン・ド・ポールザンパルク)、科学産業都市 (= 博物館) (アドリアン・ファンシルベル) からなる。ひとつひとつの自立したシステムを重ね合わせることから、複雑なコンポジションの形成が試みられている。

- ・ 国立図書館 (1995 年) (ドミニク・ペロー)

リシュリユー街にある由緒ある国立図書館のサービスに第 2 の息吹をふきこむ最新技術を導入して、研究者に快適さと効率のよさを備えた図書館を提供すること、欧州全体の図書データをネットワークすること、国民全体にオーディオビジュアル資料を広く供すること、これらの大きな要求に対応しつつ、記念碑的な建築形態を与えることとして建設された。賛否両論となった 4 本のガラスタワーを配置。